JA ZENKOUREN INFORMATION 2023.10 vol.1132

JA全厚連情報

新型コロナ対策への財政支援にかかる要望を「農民の健康を創る会」森山会長に手交

JA全厚連

目　次

- □ 新型コロナウイルス感染症対策への財政支援にかかる要望等について協議
  事業企画委員会（実務者ＰＴ・保健事業部門）を開催 1
- □ 本会・長谷川会長のインタビュー記事が掲載
  日本農業新聞（9/13 付）・日本農民新聞（9/25 付） 3
- □ 新型コロナ対策への財政支援にかかる要望を
  「農民の健康を創る会」森山会長に手交 4

・通信員だより

令和５年度 市民町民公開講座の開催（かづの厚生病院）	6
消防総合訓練を実施しました（北秋田市民病院）	7
第５回相双ホームケアネットワーク in 鹿島の開催（鹿島厚生病院）	8
介護職員研修会開催（ＪＡ福島厚生連）	9
土浦協同病院「がんセンター窓口」オープン（土浦協同病院）	10
防火・防災訓練を実施（相模原協同病院）	11
病棟別防災説明会を実施（伊勢原協同病院）	12
2023 年度 神奈川県看護師等養成実習病院の実習指導者表彰（伊勢原協同病院）	13
2025 卒対象管理部１day 仕事体験を開催しました（ＪＡ長野厚生連）	14
日本環境感染学会にて「上田 Award」を受賞しました（海南病院）	15
永年勤続者表彰式を執り行いました（ＪＡ愛知厚生連）	16
愛知県へき地・地域医療研修会を開催しました（知多厚生病院）	17
高校生オープンホスピタルを開催しました（松阪中央総合病院）	18
多職種合同オープンホスピタルを開催（鈴鹿中央総合病院）	20
永年勤続表彰を行いました（ＪＡ三重厚生連）	22
第 75 回保健文化賞を受賞して（尾道総合病院）	24

©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000　FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
（事業運営支援グループ）
http://www.ja-zenkouren.or.jp
編集責任者　中村　純誠
ＪＡ厚生連

新型コロナウイルス感染症対策への財政支援にかかる要望等について協議

事業企画委員会（実務者ＰＴ・保健事業部門）を開催

１　本会は、事業企画委員会を東京・大手町のＪＡビルにおいて、９月５日に医療事業部門実務者 PT を６日に保健事業部門をそれぞれ開催した。

会議では、共通事項として（１）新型コロナウイルス感染症対策への対応や喫緊の課題等、（２）医療用物資の国備蓄品の売却事業―等について厚生労働省から説明を受けるとともにその対応を協議した。

（１）に関しては、物価高騰等による影響を受ける中、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」森山裕会長の要請に対応する形で、８月 29 日に厚生連の令和５年度第一四半期の経営状況について説明を行った。説明に当たっては、厚生連の状況のみならず日本赤十字社及び済生会に協力いただき、公的三団体病院の状況についても盛り込んだ。

その後、新型コロナウイルス感染症に関する病床確保料等の特例措置の見直し・延長要望への対応として、日本赤十字社及び済生会とも連携し、公的三団体病院として９月 11 日に森山会長へ要望書を手交する予定であることを報告した。

さらに、喫緊の課題となっている、①円安・原油価格の高騰等による物価高騰への対応、②有償病床に係る法人税非課税措置要件の見直しについて、今後の対応について検討・協議を行った。

その際、「農民の健康を創る会」が、厚生連が抱える課題について現地で把握する視察が可能とのことから、当時クラスター対応で苦労され、その有効な対策となる有償個室の増加が必要となっているＪＡ北海道厚生連・旭川厚生病院と帯広厚生病院を候補として提案した結果、ＪＡ北海道厚生連・旭川厚生病院において現地視察が実施されることとなった旨を報告した。

（２）に関しては、８月に第一回検討会を開催し、令和４・５年度の取組を共有、他厚生連及びアドバイザーからの助言を受け、今後のそれぞれの厚生連の機能等に合った取組に反映させていくことを報告した。なお、これまでは年度内で取組みが完結・評価する方法としていたが、規模や機能等が異なる厚生連の課題は単年度で解消するこ

とが困難なものもあるため、取組期間の見直し、検討を行うこととした。

また、厚生連では、ＪＡ組合員及びＪＡ・連合会役職員に対する健康増進活動を進めているが、ＪＡグループからの更なる協力を得るために、本会としても、全国厚生連会長会議の場でＪＡにおける健康増進活動の推進の協力を求めるなど、取り組みをすすめて行くことの説明を行った。委員からは、各厚生連における取組や女性部・青年部への働きかけについて、意見等が出された。

（３）国における PPE（個人用防護具）の回転備蓄の取組について、事業を担当する厚生労働省医政局医療用物資等確保対策推進室と有限責任監査法人トーマツから事業概要の説明がされ、特に、医療事業厚生連については、当該事業へ参加するに当たっての課題等について意見交換を行った。

２　なお、自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」のＪＡ北海道厚生連・旭川厚生病院への現地視察については、創る会の先生方の理解を得て、９月 27 日に実施され多数の先生方の出席が得られ、充実した内容となった。なお、現地視察の詳細については次号に掲載を予定している。

本会・長谷川会長のインタビュー記事が掲載

日本農業新聞（9/13付）・日本農民新聞（9/25付）

本会の長谷川浩敏代表理事会長が、日本農業新聞並びに日本農民新聞よりインタビューを受けました。

インタビューでは、「コロナ禍における厚生連病院の対応」や「病院経営に対する物価高騰の影響」、「医師・看護師等の医療従事者確保」「農村地域の健康増進活動」について、厚生連を取り巻く現状を説明しました。

また、日本農業新聞からのインタビューでは、、新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、将来の新たな感染症に備えるためには個室を十分確保する必要があることから、令和６年度の税制改正で有償病床の見直しを要望していくことについても説明しました。

それぞれの記事は以下のリンクからご覧ください。

【2023年９月13日　日本農業新聞】

地域医療の中核担う　人材や財源確保に尽力　全厚連・長谷川会長インタビュー/日本農業新聞(agrinews.co.jp)

https://www.agrinews.co.jp/ja/index/182721

【2023年９月25日　日本農民新聞】

日本農民新聞　2023年９月25日号 | 日本農民新聞社(agripress.co.jp)

https://agripress.co.jp/archives/17143

安定的経営基盤の確立へ　ＪＡ事業の価値向上は健康を軸に

インタビューの様子（日本農業新聞）

インタビューの様子（日本農民新聞）

新型コロナ対策への財政支援にかかる要望を「農民の健康を創る会」森山会長に手交

本会と日本赤十字社及び社会福祉法人恩賜財団済生会は、９月 11 日に自由民主党議員連盟「農民の健康を創る会」の会長・森山裕・衆議院議員宛に「令和５年 10 月以降における新型コロナウイルス感染症対策への財政支援にかかる要望」を手交した。

三団体の病院は、公的医療機関として新型コロナウイルス感染症患者の受入れに加え、発熱外来の設置、感染症患者の受入病床の確保など、積極的に協力してきた。本年５月８日以降、同感染症の類型が変更されても、医療機関では感染対策をはじめ、様々な対策を講じる必要があることから、診療報酬上の適切な評価、病床確保料等の財政支援が引き続き必要となっている。また、物価高騰に伴うコストの増加が収支を圧迫しており、地方創生臨時交付金による支援も金額が十分でなく都道府県で格差が生じていることから、今後の地域における医療提供体制を支えるため、要望を行った。要望書は次ページのとおり。

要望書提出の様子
左から本会・中村代表理事理事長、森山裕・衆議院議員、日本赤十字社・渡部医療事業推進本部長、恩賜財団済生会・三浦経営管理課長

令和５年９月 11 日

自由民主党
農民の健康を創る会
会 長 森 山 裕 先生

日赤等三団体病院協議会
日本赤十字社
社 長 清家 篤

社会福祉法人恩賜財団済生会
理 事 長 炭谷 茂

全国厚生農業協同組合連合会
代表理事会長 長谷川 浩敏

令和５年 10 月以降における新型コロナウイルス感染症対策への
財政支援にかかる要望

公的医療機関として私どもは、新型コロナウイルス感染症患者の受入れに加え、発熱外来の設置、感染症患者の受入病床の確保など、積極的に協力してきている。

本年５月８日以降、同感染症の類型が変更されても、医療機関では感染対策をはじめ、様々な対策を講じる必要があることから、診療報酬上の適切な評価、病床確保料等の財政支援が引き続き必要となっている。

経営状況をみても、物価高騰に伴うコストの増加が加わり、収支を圧迫している。政府は、地方創生臨時交付金における「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」の中で医療等に対する支援を推奨しているが、金額も十分ではなく、都道府県間で格差も生じている。

ついては、今後の地域における医療提供体制を支えるため、以下の財政支援について要望する。

記

一、緊急包括支援事業のうち病床確保料等の必要な事業の継続

一、診療報酬上の必要な措置の継続

一、地域医療体制の維持・充実のための支援

以上

□通信員だより□

令和５年度 市民町民公開講座の開催

（ＪＡ秋田厚生連・かづの厚生病院）

７月４日、鹿角市文化の杜交流館コモッセで年に一度の秋田県・鹿角市・小坂町・岩手医科大学・かづの厚生病院（吉田雄樹病院長）共催による市民町民公開講座を開催しました。

新型コロナウイルスが５類感染症に移行してから初の市民町民公開講座であり、換気や座席間隔に配慮し、マスク希望の方にはマスクを配布するなど、新型コロナウイルス対策を行った上での講座となりました。

講義の様子

「健康寿命は血圧管理から～あなたの血圧、大丈夫？～」のテーマに、当院に７月末まで赴任していた循環器内科の島田佳穂先生が講師から、血圧の基礎的な知識や改善方法などについて講義いただき、生活習慣の大切さや健康について改めて考える機会となりました。

参加者の多くは高齢の方で、高血圧の仕組みやその予防などについて真剣な眼差しで聴講していました。中でも血圧の高い都道府県は秋田県が全国でもワースト１であり、その中でも鹿角地域が秋田県内の中で男性、女性ともに最も高血圧の方が多い地域という事実には、多くの参加者からも驚きの声が上がっていました。

すぐに治療しなければ命にかかわる重大な病気として急性心筋梗塞や脳卒中などがありますが、これらを発症する原因の一つが高血圧です。健康寿命を延ばすためには血圧管理がとても重要であり、高血圧の方が全国で最も多い鹿角地域にとって、今回の市民町民公開講座は今後の鹿角地域の医療を考えていく上で、とても興味深い講演となりました。

（斎藤美翔通信員）

消防総合訓練を実施しました

（ＪＡ秋田厚生連・北秋田市民病院）

北秋田市民病院（神谷彰病院長）では７月 12 日、１階厨房からの火災発生を想定した消防総合訓練を実施しました。新型コロナウイルス感染症の流行があり、ここ２年ほどの間は参加人数の制限や部分的な訓練をするなど規模を縮小して行ってましたが、今回は制限をせずに全部署を対象として実施しました。

訓練当日は大雨となってしまい、急遽、屋外の非常階段を使用する通常の避難ルートとは異なるルートでの避難となりましたが、スタッフの誘導をはじめ各部署が速やかに行動し避難することができました。

消火器の使用訓練では、新入職員が訓練用の水消火器を使用し実際に放水を体験しました。消火器の使用前には周りの人に大きな声で火事の発生を伝えることや、消化器での初期消火ができなかった場合には直ちに避難することが重要なことも学びました。

訓練後には北秋田市消防署合川分署の佐藤純副分署長より、「訓練はスムーズに行うことができ良かったが、本当に火災が起こったときどういう行動を取るか、普段から意識して業務にあたってほしい」との講評をいただきました。

今回は火災発生時の通報・避難・初期消火を中心とした訓練を行いましたが、今後はトリアージ訓練を含めた大規模災害発生時を想定した防災訓練を行う予定です。

患者の方々の安全を守るためには病院スタッフの初動が重要であることから、火災時や災害時の想定訓練を通して緊急時に適切な対応ができるよう備えていきたいと思います。

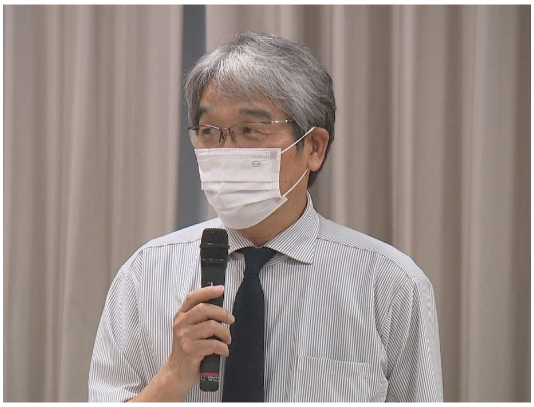
消防総合訓練の様子

（斎藤美翔通信員）

第５回相双ホームケアネットワーク in 鹿島の開催

（ＪＡ福島厚生連・鹿島厚生病院）

８月 22 日に鹿島厚生病院（渡邉善二郎病院長）主催で、第５回目となる相双ホームケアネットワーク in 鹿島を３年ぶりに開催いたしました。南相馬市・相馬市の医療・福祉・介護・行政関係者を対象に 60 名の参加者となりました。この研修会は在宅医療関係者が現状や課題を共有し、今後のあり方を模索する場として、また関係構築の場として企画いたしました。


講演の様子

講師には相馬郡医師会長 しんどうクリニック 院長 新藤譲二先生を迎え「南相馬市の新型コロナ対策 ―ワクチン接種を中心に―」と題し講演いただきました。講演では高齢者における死亡率の高さや、重症化リスクの高い方へのワクチン接種の重要性、医療・介護従事者は引続き感染予防対策の徹底を要する事等の内容で、出席者は今後に役立てようと真剣に耳を傾けていました。

この研修会では、多職種関係機関の連携とお互いの関係性をつくることでネットワーク構築につなげ、地域の在宅医療を推進しています。

会場の様子

（佐藤剛通信員）

介護職員研修会開催

（ＪＡ福島厚生連）

ＪＡ福島厚生連（高久忠・代表理事理事長）は９月９日に、福島市のＪＡビルで介護職員研修会を開催し、本会の病院・介護老人保健施設の介護職員など 41 名が参加しました。今回は３年ぶりの対面研修となりました。この研修会は、介護の現場で働く職員のスキルアップを目的に、介護施設の職員自らが講師を選び毎年開催しています。

講師に坂下厚生総合病院（高田信病院長）認知症認定看護師の久和美恵先生を迎え、「認知症のケア―その人らしい生活を支える―」をテーマに講演頂きました。認知症の疾患について（分類、中核症状等）、認知症のケア、多職種で関わる事の大切さについて、症例を交えて解説し、後半にはグループに分かれて、認知症高齢者の対応困難事例に対するケア方法を利用者の「思い」を含めて検討し、グループ毎に発表しました。参加者からは「認知症のケアについて改めて学ぶことが出来た」「認知症一人一人に合ったケアをする為に、背景を理解する事が大切だと思った」「認知症をより深く理解出来た。今後の業務に活かして行きたい」等の声が寄せられました。今後の病院・施設での認知症ケアに活かせる研修会となりました。

介護職員研修会の様子

（佐藤剛通信員）

土浦協同病院「がんセンター窓口」オープン

（ＪＡ茨城県厚生連・土浦協同病院）

ＪＡ茨城県厚生連（長谷川博史・代表理事理事長）が運営する土浦協同病院（河内敏行病院長）では、９月５日「がんセンター窓口」がオープンしました。

オープニングセレモニーの様子

がんはどのような病気なのか、療養費や生活、土浦協同病院のがんの診療体制など、患者さまやそのご家族の方だけでなく、地域住民の方々が気軽に相談できることを目的に開設されました。

同センターのロゴマークは、窓や架け橋をモチーフに、「心が開き、希望が広がっていくこと、希望ある明るい未来へとつながっていくこと、患者さまと未来をつなぐ架け橋」をイメージしたものとなっております。

オープニングセレモニーで、稲垣雅春センター長は「がんについて気軽に相談し、不安を取り除いてもらうとともに、当院の持つがん診療機能を可能な限り活かして地域に貢献したい」と話しました。

「がんセンター窓口」オープン

（酒井一彦通信員）

防火・防災訓練を実施

（ＪＡ神奈川県厚生連・相模原協同病院）

８月 31 日に相模原協同病院（渋谷明隆病院長）は、令和５年度第１回防火・防災訓練を実施しました。今回は夜間帯に震度５強の地震が発生し、３Ｎ病棟で火災が発生したという想定で行いました。すぐに災害対策本部が設置され、病棟ではリーダー看護師が積極的に大きな声で指示を出し、初期消火に取り組みました。寝たきりの患者役スタッフをシーツにくるんで運ぶ訓練や、屋外で消火器の取り扱いの訓練を行いました。いつ災害が起こっても混乱しないように、定期的な訓練を行い、防災意識を高めていきたいです。

消火器の取扱い訓練

（生沼貴彦通信員）

病棟別防災説明会を実施

（ＪＡ神奈川県厚生連・伊勢原協同病院）

８月 21 日に伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）は、病棟別防災説明会を実施しました。伊勢原市消防本部の職員から、防災設備等の使用方法について各病棟のスタッフが説明を受けました。火災通報装置の使用法など機器の説明だけでなく、防火戸や排煙窓を実際に動かすなど、普段使わないからこそ確認しづらい点を解消する機会となりました。

防災設備の扱い方をスタッフ一人一人が理解し、不測の事態が発生した際に対応できるよう今後も備えてまいります。

消防署職員からの説明

（生沼貴彦通信員）

2023年度 神奈川県看護師等養成実習病院の実習指導者表彰

（ＪＡ神奈川県厚生連・伊勢原協同病院）

８月９日に伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）は、看護教育の発展・向上に功績のあった実習指導者に贈られる神奈川県看護師等養成実習病院の実習者指導者表彰を、伊勢原協同病院の助産師である服部 千恵子(はっとり ちえこ)さんが受賞しました。

実習指導者は通常の業務に加え、効果的な実習指導ができるよう必要な研修を受講し、看護学生の実習指導を行っています。服部さんは長きにわたり産科実習指導者として看護学生の養成に携わってきました。この功績が評価され、服部さんは2023年度実習指導者表彰受賞者として選ばれました。

優れた実習指導者のもと、今後も質の高い看護教育ができるよう努めてまいります。

表彰された服部さん（写真左から2番目）

（生沼貴彦通信員）

2025卒対象管理部１day仕事体験を開催しました

（ＪＡ長野厚生連）

ＪＡ長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は８月９日・10日・24日、９月13日に2025卒対象管理部１day仕事体験（インターンシップ）を開催し、合わせて39名の学生に参加いただきました。８月はＷＥＢ開催で、厚生連概要説明・事業所若手職員による業務紹介・座談会・医療費計算業務体験を行いました。

９月13日は、８月に参加いただいた学生の中から募集を行い６名の学生が参加し、午前中に経営分析業務体験を実施し、午後には実際の厚生連病院へ赴き、窓口業務体験・施設見学を行いました。参加した学生からは「就職活動をするにあたっての大切なことや必要なことを先輩方から聞けて良かった」「病院の裏側や経営分析を通して、実際に行っている仕事内容や雰囲気を学ぶことが出来た」などの意見がありました。

今後、冬期インターンシップ開催も予定しており、より多くの学生に参加いただき、ＪＡ長野厚生連を知ってもらう機会にしたいと思います。

参加型就業体験の様子（自己紹介）

参加型就業体験の様子（窓口業務体験）

（山岸愛通信員）

日本環境感染学会にて「上田 Award」を受賞しました

（ＪＡ愛知厚生連・海南病院）

７月 21 日に横浜で開催された「第 38 回日本環境感染学会総会・学術集会」にて、海南病院（奥村明彦病院長）の薬剤師 髙橋弘泰さんら他４名が発表した論文が優秀論文として「上田 Award」※を受賞しました。

※「上田 Award」は日本環境学会の学会誌に掲載された論文の中から選出されます。

左から渡邉感染制御部長、髙橋薬剤師、奥村病院長

学会での表彰式の様子

（井桁千聡通信員）

永年勤続者表彰式を執り行いました

（ＪＡ愛知厚生連）

ＪＡ愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）では、８月 23 日、名鉄グランドホテルにて勤続 30 年・20 年の職員を対象とした永年勤続者表彰式を行いました。長年本会を支えてきた職員に宇野理事長より感謝と今後への期待を込めたメッセージが送られました。また、各事業所では勤続 10 年の職員を含めた表彰式が開催されており、表彰状と記念品が贈呈されました。

職員向け広報誌「こうせい」の特集記事

（井桁千聡通信員）

愛知県へき地・地域医療研修会を開催しました

（ＪＡ愛知厚生連・知多厚生病院）

知多厚生病院（高橋佳嗣病院長）では、８月19日に愛知県へき地医療支援機構主催の「愛知県へき地・地域医療研修会」を開催しました。この研修会は、地域医療への理解を深め多種多様な職種の医療従事者が交流を深めることを目的に毎年開催されており、愛知県へき地医療支援機構分室がある当院も開催協力をしています。今年は、日間賀島診療所所長の安井健三先生と志摩市民病院病院長の江角悠太先生に講演いただきました。医療従事者は病気を治療するだけではなく、その後の生活を踏まえて、その人らしく生きることを手助けしていく役割があるということを改めて感じていただける研修会となりました。

＜ワークショップテーマ＞

「治療が困難な病気の患者さんに対して、患者さんとご家族にとって一番良い選択肢を導き出すにはどうしたらよいか」

ワークショップは、「医師のたまご」の医学生も参加。グループに分かれて多職種で話し合い地域医療のあり方を学びました

（井桁千聡通信員）

高校生オープンホスピタルを開催しました

（ＪＡ三重厚生連・松阪中央総合病院）

松阪中央総合病院（田端正己病院長）では、８月18日、「高校生オープンホスピタル」を開催しました。地域の高校３年生52名の参加がありました。全員でのオリエンテーションを行い、白衣を着用し医師・看護師など全９職種に分かれ医療現場の見学・体験をしました。その後、救急センター、ドクターカーを見学し終了となりました。特に、手術支援ロボット「ダヴィンチXi」のシミュレーションは大いに盛り上がりを見せていました。体験した高校生から“最新の医療機器に触れることで将来への実感が湧きました。”、“実際の医療現場を見て、医療業界についてもっと知りたいという思いが強くなりました。”などの声が聞かれました。これをきっかけに医療に興味を持ち、近い将来、一緒に働くことができる日を期待しています。

「手術支援ロボットダヴィンチXi」のシミュレーション体験

ドクターカー見学

松阪中央総合病院オープンホスピタル

（教来石信彦通信員）

多職種合同オープンホスピタルを開催

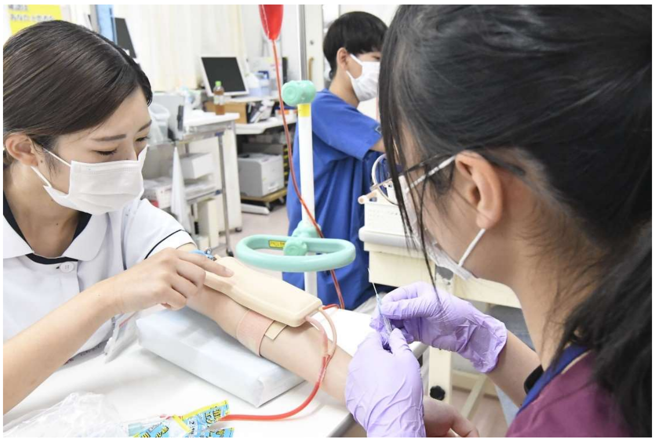
（ＪＡ三重厚生連・鈴鹿中央総合病院）

鈴鹿中央総合病院（北村哲也病院長）では８月５日、オープンホスピタルを開催し、近隣の高校３年生55名が参加しました。

オープンホスピタルも新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和元年度以来４年ぶりの開催となり、今回は看護師以外に医師、薬剤師など多職種合同での開催となりました。

医学部を志望する高校生は、臨床研修医の指導のもと、皮膚縫合の体験、救急外来の見学、進路や勉強法の相談を行ったほか、看護師・薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・臨床工学技士・管理栄養士も各職場での見学や体験を行い、最後に村田副院長から、「医療人を志すという初志を貫徹し、勉強に励んでほしい」と激励の言葉とともに、職員からメッセージカードを贈りました。

参加者からは「普段見られない病院のことを知れて良かったです。」との声が聴けました。数年先に厚生連病院で一緒に働ける日を楽しみにしています。



オープンホスピタル開催の様子

（教来石信彦通信員）

永年勤続表彰を行いました

（ＪＡ三重厚生連）

ＪＡ三重厚生連（庄山隆裕・代表理事理事長）では、毎年永年勤続表彰を各事業所において行っており、今年度は勤続 30 年表彰 25 名、勤続 20 年表彰 40 名、勤続 10 年表彰 57 名、合計 122 名が対象となりました。

また、コロナの影響により３年間中止となっていた、表彰式ならびに懇談会を開催し、勤続 30 年、20 年表彰対象職員が参加しました。

長年にわたり勤務していただいた皆さんに心から感謝申し上げるとともに、今後もＪＡ三重厚生連の発展にご協力お願い致します。

表彰式の様子

松阪中央総合病院

鈴鹿中央総合病院

三重北医療センター菰野厚生病院

三重北医療センターいなべ総合病院

大台厚生病院

南島メディカルセンター

鈴鹿厚生病院

本部

（教来石信彦通信員）

第75回保健文化賞を受賞して

（ＪＡ広島厚生連・尾道総合病院）

第75回保健文化賞の受賞について、ＪＡ尾道総合病院（田中信治病院長）の副院長花田敬士氏（消化器内科）よりご寄稿いたしました。

このたび第75回保健文化賞を受賞いたしました。保健文化賞は保健衛生の向上などに貢献した団体、個人を表彰する賞（第一生命保険主催、厚労省、朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団が後援）です。

当地区では、当院および尾道市医師会を中心に2007年に開始した『膵癌早期診断プロジェクト（尾道方式）』の取り組みを精力的に展開しており、現在までに尾道地域医療圏における早期診断例の増加、５年生存率の改善などの成果を生み、同様の取り組みが全国に展開されています。従来同様の取り組みは他地区に前例がありませんでした。現在、膵癌の５年生存率は全国では8.5%とされていますが、早期診断例が増加した当地区では20%前後に改善してきています。膵癌の危険因子（糖尿病、喫煙、大量飲酒、家族歴、膵嚢胞、膵管拡張など）を有する症状のない患者様に介して、地域の開業医の先生方に腹部超音波や血液検査を介入いただき、軽微な異常があった場合でも積極的に当院を含む中核施設にご紹介いただくアルゴリズムを展開しております（図１）。

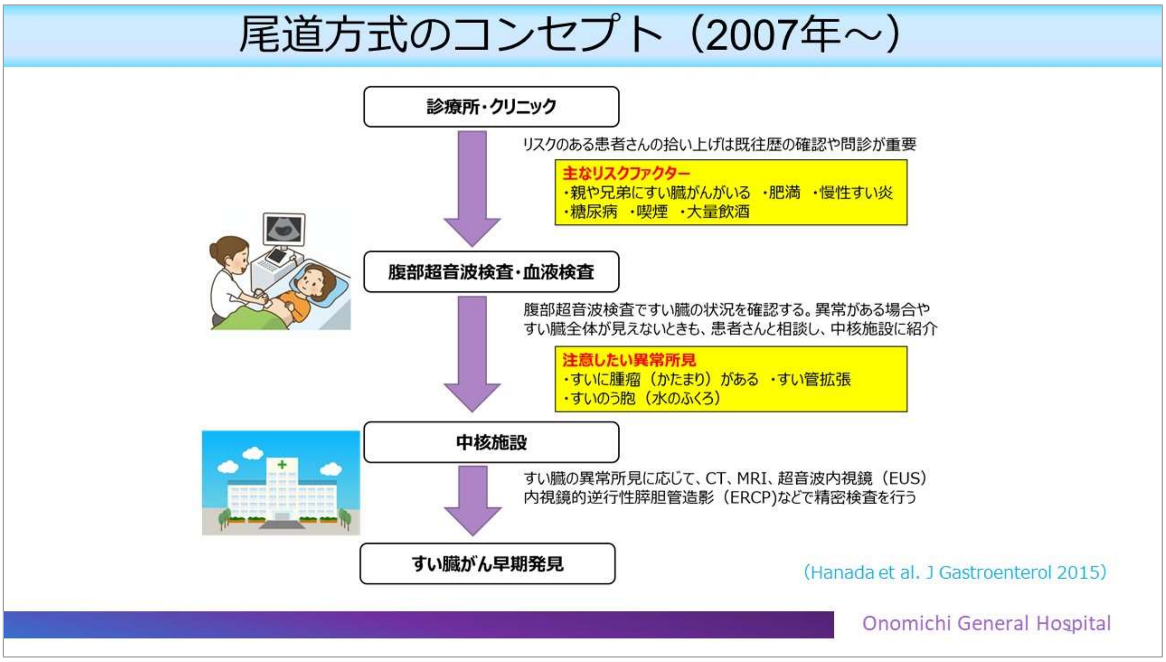


図1：膵癌早期診断プロジェクト（尾道方式）

尾道地区の取り組みは広島県でも高い評価を頂き、現在、広島県、広島県医師会、広島大学が３年間の準備期間を経て、県内の２次医療圏ごとに尾道方式と同様の展開を行う Hi-PEACE プロジェクト（図２）が 2022 年 10 月から開始されており、広島県下全域での予後改善へ期待が高まっています。

図 2：Hi−PEACE プロジェクトの概要

今後、2023 年 12 月に東京にて保健文化賞の授与式、および皇居での天皇陛下の拝謁が予定されており、この賞の重みを感じております。

最後になりましたが、膵癌早期診断の取り組みに対して全面的にご協力頂いているＪＡ尾道総合病院のスタッフ、尾道市および近隣医師会の先生方、尾道市、広島県の行政スタッフ、母教室である広島大学消化器内科の先生方、および理事長をはじめとするＪＡ広島厚生連の皆様に心から感謝申し上げます。

（中司貴子通信員）